

# 異文化に対した時 互いの類似点を 見いだす視点が大切

京都外国語大学 学長  
堀川徹志

取材・文／堀水潤  
撮影／中岡邦夫



【学長プロフィール】1942年生まれ。65年京都外国語大学外国語学部英米語学科卒業。77年同大学院外国語学研究所英米語学専攻修了。京都外国語大学助手、助教授を経て、教授。97年副学長。2002年より現職。専門はカナダ文学。

【大学プロフィール】1947年京都外国語学校として創立。外国語学部は英米語、スペイン語、フランス語、ドイツ語、ブラジルポルトガル語、中国語、日本語、イタリア語の8学科を設置。実践的外国語運用力、コミュニケーション力、多文化共生力の育成に努める。

本学は1947年の創立以来、「言語を通して世界の平和を」という建学の精神のもとで歩んできました。ひと口に平和といつても、戦争で疲弊し、長く冷戦構造のなかにあつた時代の平和と、共存の時代といわれる21世紀の平和とは、多少その概念が異なります。

多様性のある世界のなかで共存すること、また、グローバル化が進むなかで自国のアイデンティティを失わず、かといって民族主義に陥ることなく世界平和に貢献する人材を育むことこそ今日求められる平和教育ではないでしょうか。そのためには異文化に対し、その相違点にばかり目を向けるのではなく、類似点を見つけ受容する視点が欠かせません。外国語を学ぶことはその近道です。ゲートは「外国語の勉強は別世界への探検」と言いました。外国語を通して世界を眺めることは、自身を深く見詰め、先人観を正すいい機会です。外国語学習は実用的であると同時に教養的でもあるのです。

本学では、こうした建学の精神を1年次の必修科目「言語と平和」などを通して伝えていきます。リレー講座や演習によつて、思考力や発表力など大学生として求められる基礎的な能力を磨きながら、平和や多文化共生について深く学

んでもらおうという試みです。

本学はまた、16もの外国語から選択して学べる「外国語科目」や、学科の枠を越えて自由に学べる約540の「学科間開放科目」を用意しています。これは多面的な視点から世界を理解する上で非常に大切なことでしょう。現在、国際機関で活躍するためには複数の言語能力が問われます。日本語を母語とする者にとって困難な挑戦ですが、第2外国語はもとより第3外国語まで学ぶ学生がいることを頼もしく感じています。

また、外国語や外国文化を学ぶには自国の言葉や文化についての認識が不可欠です。その点、日本文化のエッセンスが詰まった京都にある外国語大学というのは間違いなく地の利がある。そうした好条件を生かし、本学の学生は積極的にキャンパスから飛びだし、様々な文化イベントやボランティア活動などを行っています。

現在、学科横断的な性質をもつ新学科の設置も検討中です。そこでは、外国語の知識や技能はもちろん、日本文化に対する理解や礼節、国際教養を備えた世界人を輩出するつもりです。共存時代において世界に貢献する意欲ある若者に期待しています。